

# 芝浜

(2012)

高橋悠治

Piano

The first system of the piano score is in 4/4 time. The right hand has a whole rest for the first two measures, followed by a melodic line starting in the third measure. The left hand plays a steady eighth-note accompaniment. A 'stacc.' marking is placed above the first note of the left hand in the third measure.

The second system continues the piano accompaniment. The right hand has a whole rest for the first two measures, then a melodic line starting in the third measure. The left hand continues the eighth-note accompaniment. A '4' marking is above the first note of the right hand in the third measure, and a '5' marking is above the first note of the right hand in the fifth measure. The lyrics 'さしかわりまして、' are written below the right hand.

The third system continues the piano accompaniment. The right hand has a whole rest for the first two measures, then a melodic line starting in the third measure. The left hand continues the eighth-note accompaniment. A '7' marking is above the first note of the right hand in the third measure, and a '5' marking is above the first note of the right hand in the fifth measure. The lyrics '毎度ばかばかしいことを…… さけは ひやくやくの長— なんてことを申しますが、' are written below the right hand.

The fourth system continues the piano accompaniment. The right hand has a whole rest for the first two measures, then a melodic line starting in the third measure. The left hand continues the eighth-note accompaniment. A '10' marking is above the first note of the right hand in the third measure, and a '5' marking is above the first note of the right hand in the fifth measure. The lyrics 'ほどほど でないと、よいことは ございません。' are written below the right hand.

芝浜

13 **1**

「ちよいと、くまさん」 「うう、— なんだい、なんだい」

16

起きて 河岸へ 行ってくださいよ 「まだ はやいよ」

19

はやい はやいと言ってるうちに おそく になりますよ。 もう

22

十日もあきないを やすんで さげばかり飲んでるじゃないか。 うちには もう なにもないん

25

だよ。 やつとあちこちにおたのみして もとでをこしらえてきたんだから、さあ

芝浜

2

28 起きて 行っておくれよ 「う う、行くよ 行くよ」 stacc.

31 盤台をかついででかけたから、 やつと行って くれたかと

34 ほうぼう掃除して 一ふくしていると 「ちよつ と開けてくれ」

37 「どうしたんだい」 「ちよつと 開けて 開けて」 「どうしたのさあ」

3

40 「おい、 だれか いないかい？」 「だれも いや」

芝浜

44  
44  
しないよ、 どうしたんだい」 「まあ 聞いてくれ。 起こされて、

48  
48  
おそい おそいつてえから河岸へ 行ったら、 まだ 夜が 明けて ねえ じゃねえか。

51  
51  
しかたが ねえ から しばの はまへ 行って、

54  
54  
うみの 様子 見ながら 歩いてると、 なんか こう あしを 引っぼる

57  
57  
やつが いる。 ひよいと 見ると ひも が 引っかかってんだよ。

芝浜

60 たぐってみるてえと、 そのさきにかわぎいふ、 ずっしりおもいんだ。

63 二分金で五十両。 いそいではらがけのどんぶりい

65 ほうりこんで、 駆け出して来た」 「じゃあ、 その財布 ひろって

68 きたのかい?」 「そうよ」 「おとしたひとがあるだろうね」 「あたり

71 めえよ。 ひろったものがありやあ おとしたやつがあるわけだ」

芝浜

74

ひろったものをむやみにつかうわけにゃあ いかないね、とどけなくちゃあ」「冗談

77

言うねえ、 往来でひろっ たんじゃあねえ、 うみのなかでひろっ たんだけ。

80

おいらにさずかったかねだ、 とどけるにゃあおよばねえ」「それじゃあ、

83

このおかねをどうするつもりなの」「どうするのつ たつて…… これでうめえ

86

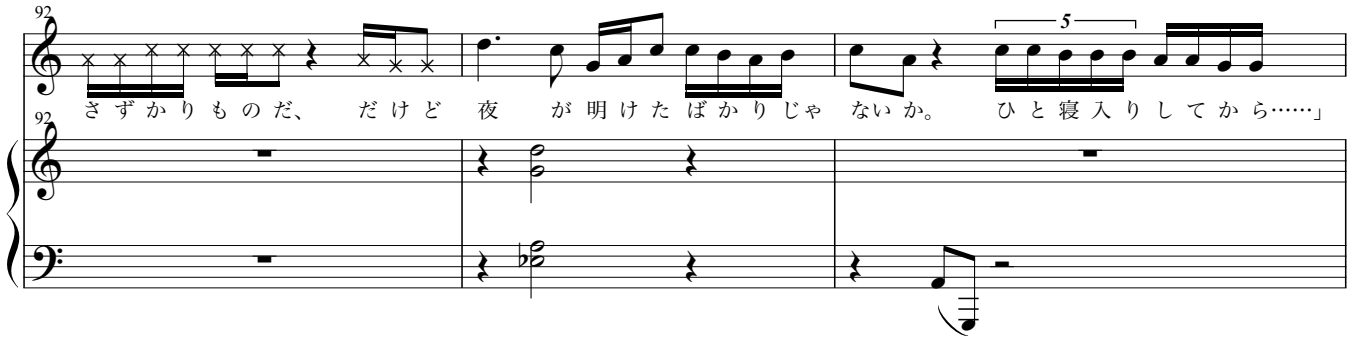
もの食って、 おめえに いい 着もの買っておれも いい 半纏着て、ともだち

芝浜

89 呼んで大盤振る舞い、しこたま飲ましてご馳走するんだ 「そりゃあまあ、



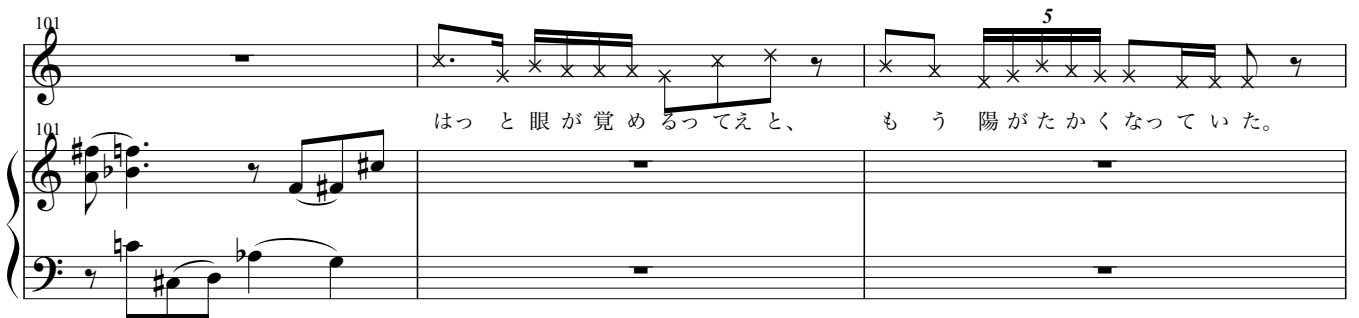
92 さずかりものだ、 だけど夜が明けたばかりじゃないか。 ひと寝入りしてから……」



95 「うれしくて寝られねえよ」 「眼えつむつてり寝られるよ、ねえ、いいから寝なよ」



101 はつと眼が覚めるってえと、 もう陽がたかくなっていた。



芝浜

6

104

あさ湯に行つてかえりにともだちを 五ろく人引つ張つて来た。 「おう、

104

stacc.

107

さけえ買つてきねえ、天ぷら そういつてこい、うなぎを あつらえてこう。 たい へん

107

110

縁起のい いめでてえことが あつからな、おめえたちにも 飲ましてやつからよ う」

110

113

さんざん飲んだり食つたり して、みんなが行つちまうてえと、くまさんは 前後忘却

113



芝浜

116 <sup>5</sup>

その場で寝てしまいました。 そのうち あかりがついて……

119 <sup>7</sup>

「ちよいと、くまさん、くまさん」 「う う、 …… みず 一杯

122 <sup>3</sup>

くれ、 …… あれ、 みんな どうしたい？

125 <sup>8</sup>

けえった？ そうか 「ちよいと、 お前さん、 今日はどうしたのさ あ？

128 <sup>6</sup> <sup>5</sup>

めでてえ めでてえって みんなに飲まして仕出し取ったりして、 あの勘定はどうして

芝浜

131 (声をひそめて) 5 6

はらうのさあ? 「あれからはらっときねえ」 「あれって?」 「ひろった五十両だよ」

134 5

「え? 五十両 ひろった? どこで?」 「しばのはまで、 買い出しに

137 5 5 9 5

行って、ひろったじゃねえかよう」 「買い出しに? いつ行ったのさ? 今朝買い出しに

140 5 5 5 5

行っとくれよ、たらお前さんどうしたい? あさ湯行行って出たろ? かえりに大勢引っ張って

stacc.

芝浜

143

来て、めでてえめでてえって みんなで飲んだ。ね? そいで寝ちゃったから

146

10

6

いま起こした。どこでひろったんだよ? 「え、じゃあ何だい」

149

「ゆめかなんか見たね? おかねがほしいとおもってれば、そんなゆめも

152

見るんだよ 「なんだい、あれはゆめなのかい」

芝浜

155 「ゆめだ よ う」 「かね ひ ろったのは ゆめで、 飲ん ださけは ほん と かい」



158 「ほん と だ よ」 「ふう ん」 「ふう ん じや ない よ。 勘 定 は どう す ん だ よ？」



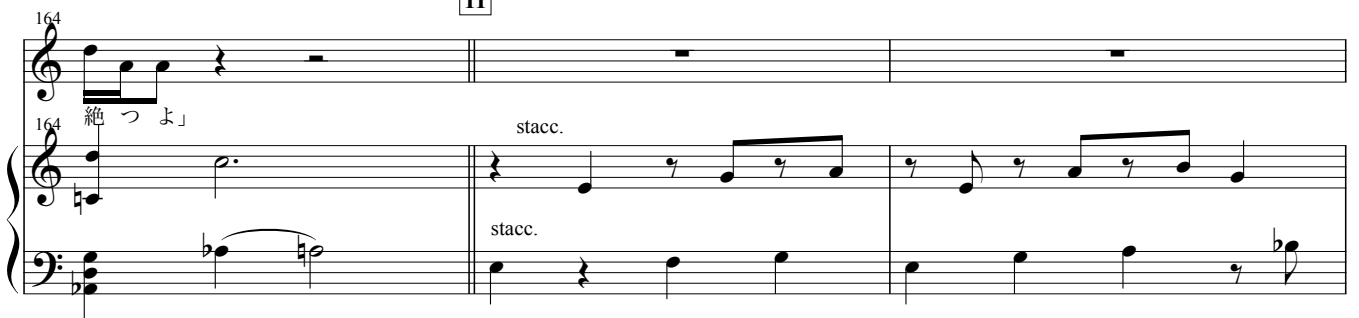
161 「お ど か す ない。 仕 様 が ない な。 — あ す か ら さ け を 金 毘 羅 さ ま い



11

164 絶 つ よ

stacc.



167 つ ぎ の あ さ は や く 出 て、 買 い 出 し を し ま し て、 あ ち ら こ ち ら と と く い



芝浜

170

170 さきをまわると、その日は おもいのほかあきないができた。 おもしろくなってきて、

173

173 あめ降りかぜ吹きもやすまず いち 年すぎ、二年すぎ、三年目の 大 みそか、

12

176

176 「けえってきたよ」 「おかえり」 「これで ことしもとしが越せるなあ」

179

179 「ほんとに、お前 さんよく はたらいたね。 今日は 見せる ものが ある」

182

182 ととだなから出したたけづつ さかさにとすると、 出てきた

芝浜

185

かわの財布、なかからは五十両。

188

「おどろいたな、こりゃあしばはまでひろったんだ」「そう、あれさ」「だって

191

ゆめだって言って」「まあお聞きよ。お前さんがこのおかねを三年前に

194

ひろって来てくれたとき、わたしはうれしかったよ。うれしかったけど、

196

この五十両どうするのって聞いてみたら、ただ飲んだり食ったりいい着ものを

芝浜

199

着たり、見栄につかってしまいそうだから、こりや大変、つかって

201

しまって、あとでひろったということが知れたら、どんなおとがめを

203

受けるかしのれない、だからね、わたしはお前さんが酔って

205

寝てしまったのをさいわい、大い家さんに相談して、とどける

芝浜

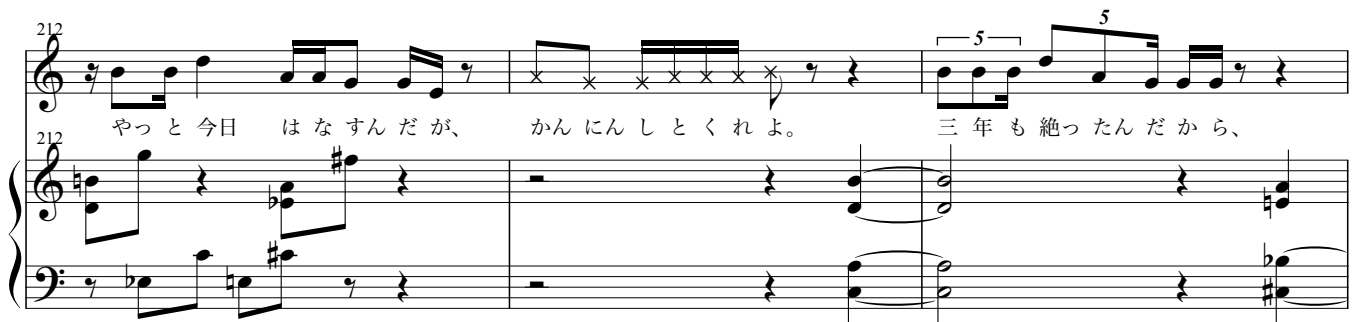
207 <sup>5</sup> <sup>6</sup>  
ところへとどけた *stacc.*。 落としぬしが出なくていち年で



209 <sup>6</sup>  
それがもどってきたけど、 せつかくはたらき出したのにと おもっているうちに三年目、



212 <sup>5</sup> <sup>5</sup>  
やっとなん日はなすんだが、 かにんしとくれよ。 三年も絶ったんだから、



215  
もういいだろう。 今日是一本おあがりよ」



218  
「え、 ほんとうか 飲もうか」「お飲みよ」「ありが





芝浜

221

てえな あ、…… おつと」「どうしたの」

stacc.

224

「よそう」「なんで さあ?」「また 夢に なると いけねえ」